

令和6年度 新蟹江小学校 学校評価アンケート集計

1 本校の教育目標に基づく経営方針と評価の視点

豊かな心と高い知性を持ち、心身ともに健康でたくましく、力強く未来を切り拓いていく実践力のある児童の育成を図る。

<p><校訓></p> <p>明るく……………明るく思いやりがあり、助け合う子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進んで心のこもったあいさつができる子 ・他人を思いやり、誰とでも仲良くできる子 <p>強 く……………心も体も健康で、たくましく生きる子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命を大切に、生き生きと活動する子 ・進んで体を鍛え、ねばり強く最後までやりぬく子 <p>より深く……………よく考え、進んで学ぶ子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく見て、よく聞き、よく考え、自分の思いを表現できる子 ・自ら課題を見つけ、進んで考え、解決しようとする子 	<p><めざす児童像></p>
---	-----------------------

2 経営方針と重点目標の評価の視点

(1) 経営方針

予測不可能な社会においても、子どもたち一人一人が、たくましく、より良く生きていくために、6年間の義務教育の中で、基礎基本の学力を身に付けるとともに、多様な体験活動を通して、他と協働して課題を解決しながら生きる力と心豊かで心身ともに健康な児童の育成に力を注ぐ。

(2) 本年度の重点努力目標

- ア 新しいことに挑戦できる学校づくり
- イ 課題解決を自分の学びに結び付ける学校づくり
- ウ 日常生活を学びに生かす学校づくり
- エ 笑顔で楽しく過ごせる学校づくり

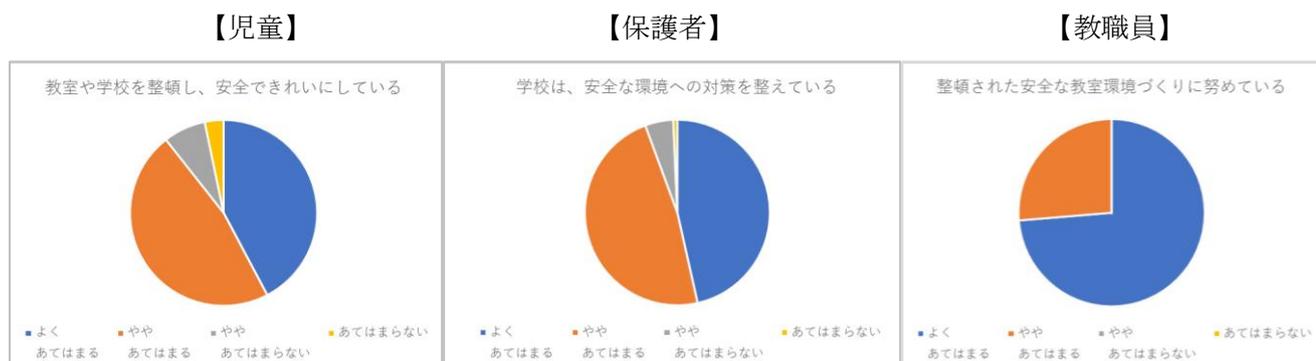
※ 学校評価は、経営方針と重点目標の達成度評価を基本とし、アンケート方式による児童・保護者・教職員の評価と日頃の教育活動をもとに分析を行う。

3 学校評価アンケート集計結果

①児童：教室や学校を整頓し、安全できれいにしている。

保護者：学校は、安全な環境への対策を整えている。

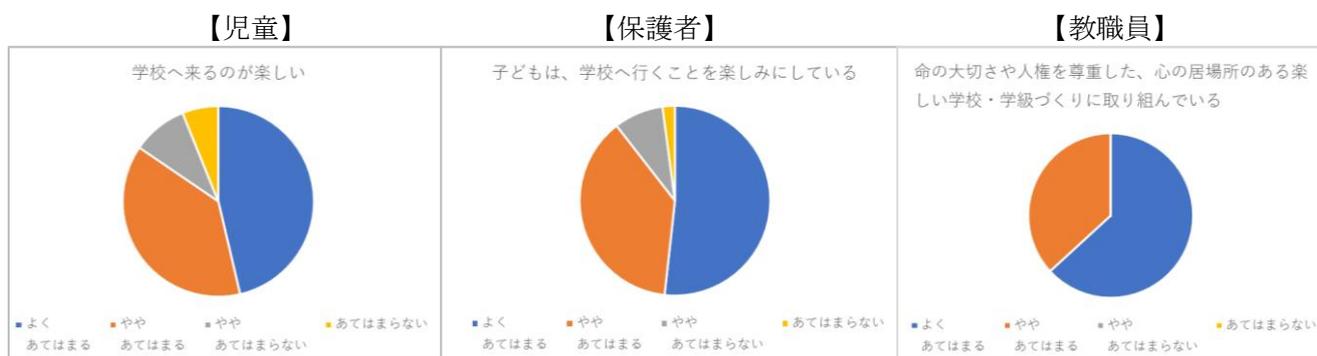
教職員：整頓された安全な教室環境づくりに努めている。



②児 童：学校へ来るのが楽しい。

保護者：子どもは、学校へ行くことを楽しみにしている。

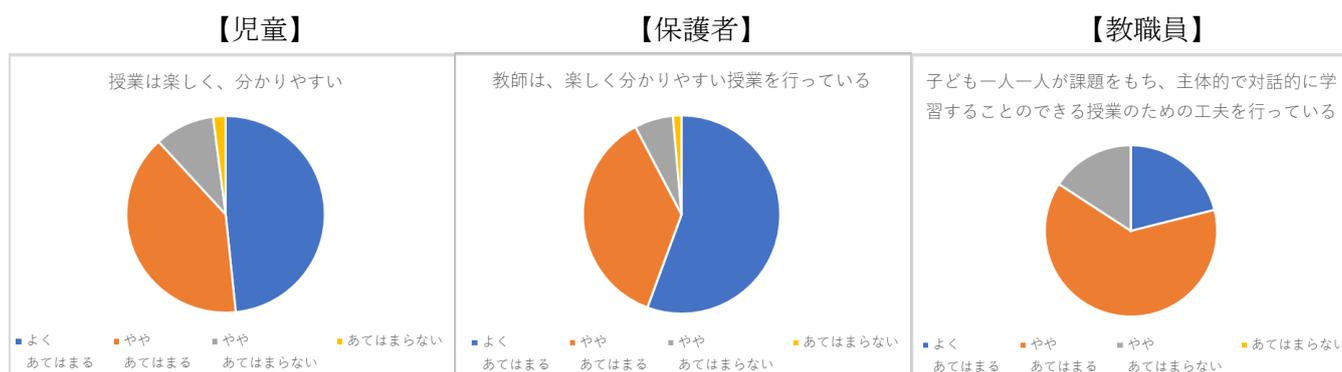
教職員：命の大切さや人権を尊重した、心の居場所のある楽しい学校・学級づくりに取り組んでいる。



③児 童：授業は楽しく、分かりやすい。

保護者：教師は、楽しく分かりやすい授業を行っている。

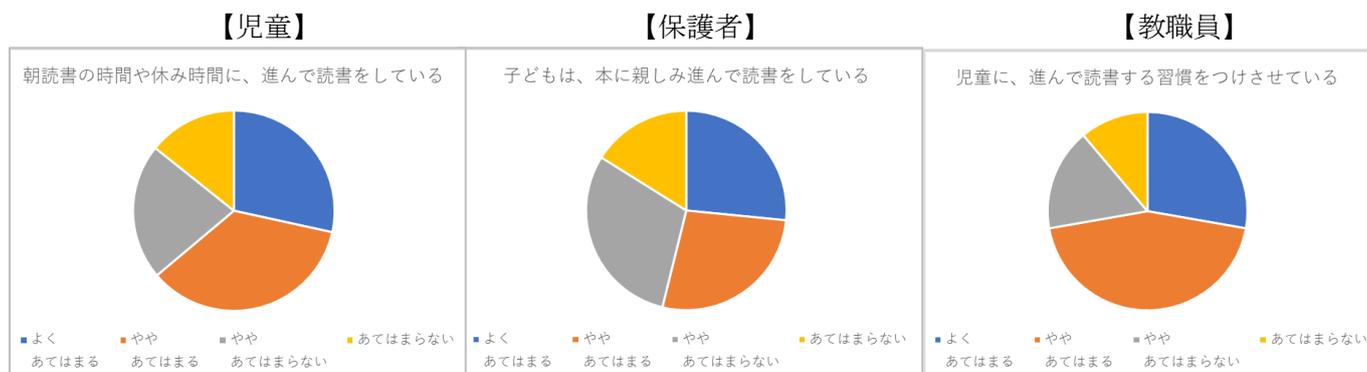
教職員：子ども一人一人が課題をもち、主体的で対話的に学習することのできる授業のための工夫を行っている。



④児 童：朝読書の時間や休み時間に、進んで読書をしている。

保護者：子どもは、本に親しみ進んで読書をしている。

教職員：児童に、進んで読書する習慣をつけさせている。



⑤児 童：授業では、いろいろな体験や活動ができた。

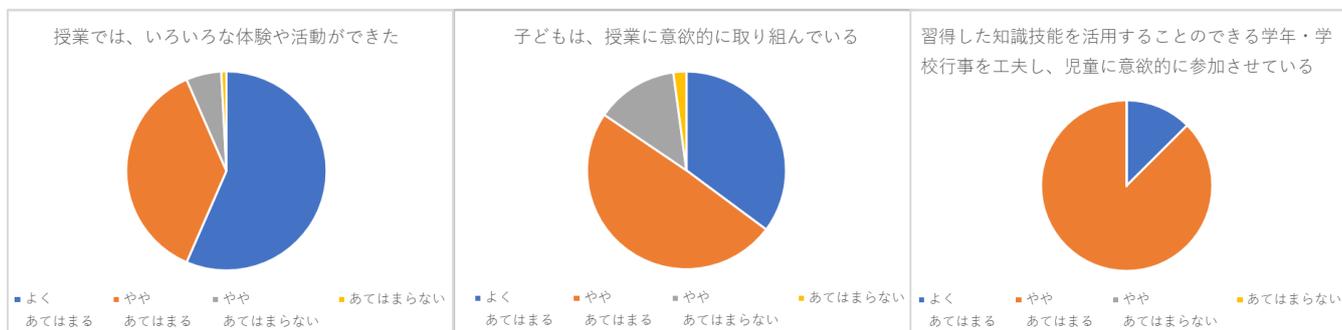
保護者：子どもは、授業に意欲的に取り組んでいる。

教職員：習得した知識技能を活用することのできる学年・学校行事を工夫し、児童に意欲的に参加させている。

【児童】

【保護者】

【教職員】



⑥児 童：タブレット端末を使って、調べ学習（web 検索）、まとめ学習（文書作成）・発表（プレゼンテーション）などを行っている。

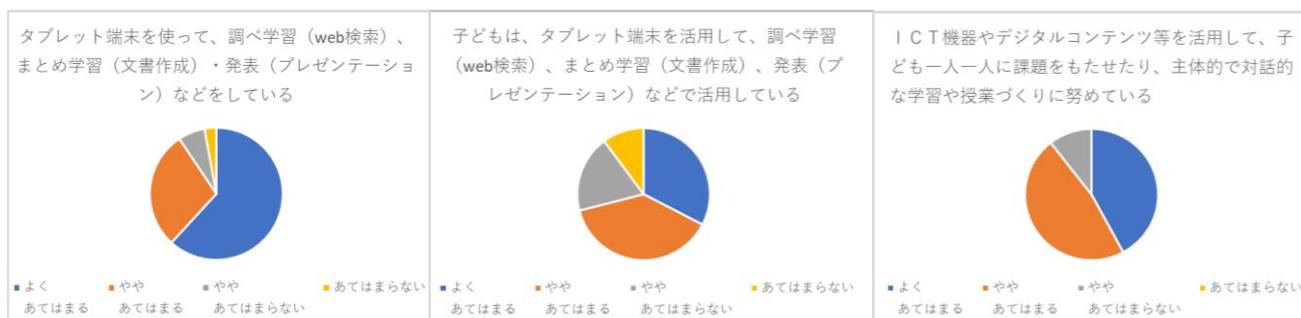
保護者：子どもは、タブレット端末を活用して、調べ学習、まとめ学習、発表などで活用している。

教職員：I C T機器やデジタルコンテンツ等を活用して、子ども一人一人に課題をもたせたり、主体的で対話的な学習や授業づくりに努めたりしている。

【児童】

【保護者】

【教職員】



⑦児 童：何か困ったことや悩みごとがあったときには先生に相談している。

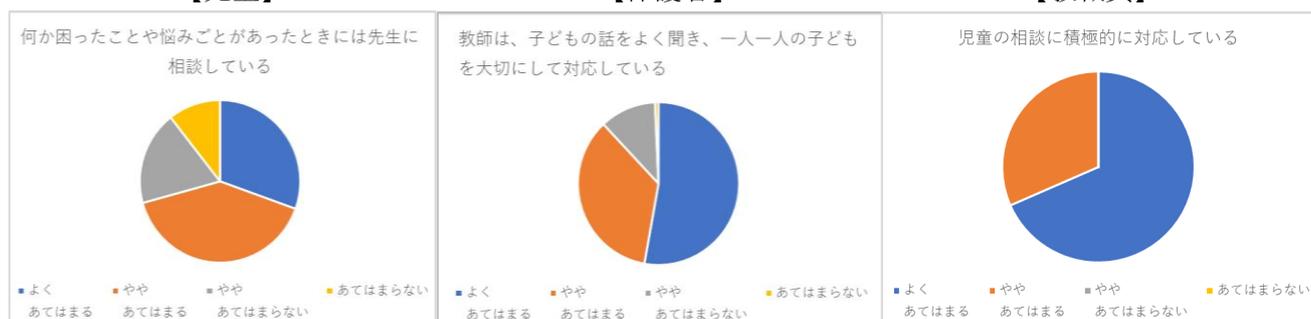
保護者：教師は、子どもの話をよく聞き、一人一人の子どもを大切にしている。

教職員：児童の相談に積極的に対応している。

【児童】

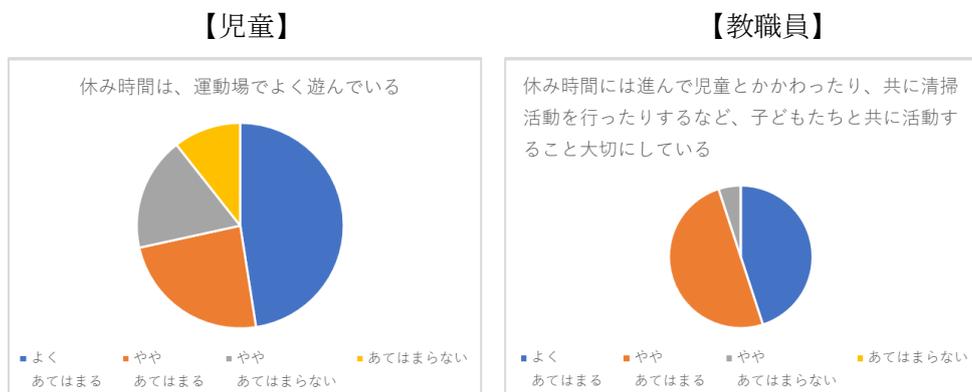
【保護者】

【教職員】



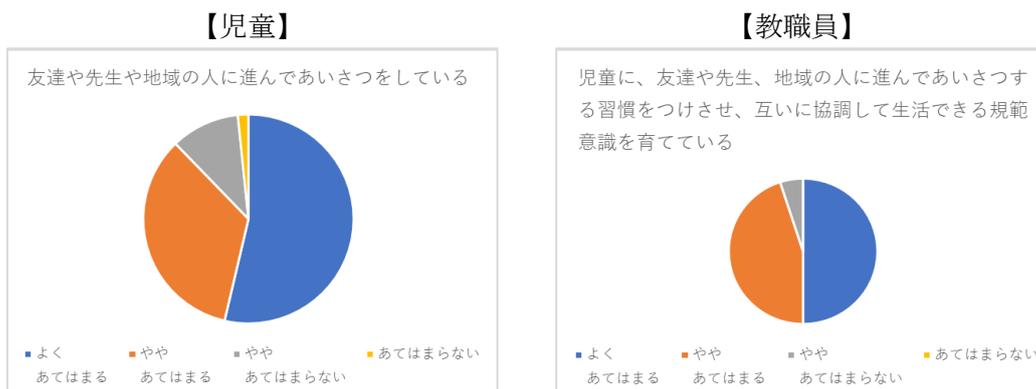
⑧児 童：休み時間は、運動場でよく遊んでいる。

教職員：休み時間には進んで児童とかかわったり、共に清掃活動を行ったりするなど、子どもたちと共に活動すること大切にしている。



⑨児 童：友達や先生や地域の人に進んであいさつをしている。

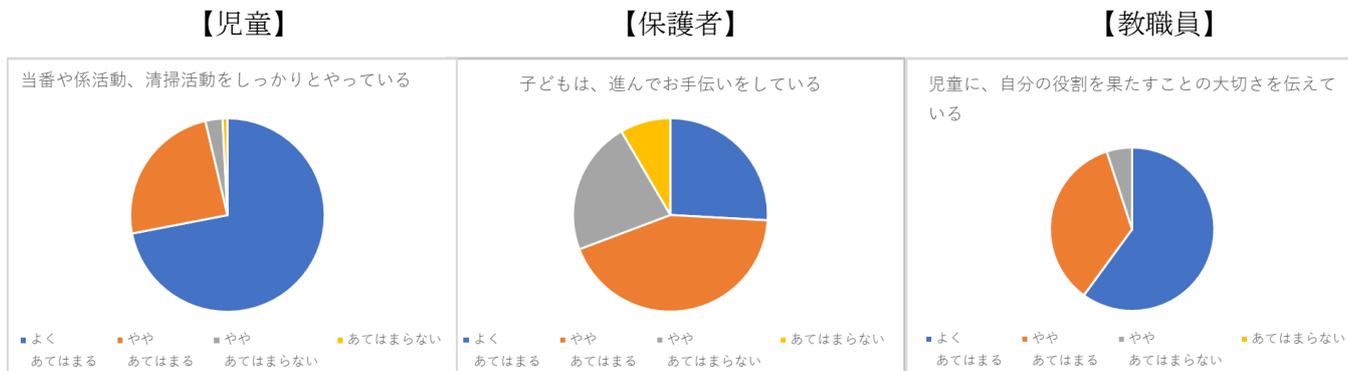
教職員：児童に、友達や先生、地域の人に進んであいさつする習慣をつけさせ、互いに協調して生活できる規範意識を育てている。



⑩児 童：当番や係活動、清掃活動をしっかりとやっている。

保護者：子どもは、進んでお手伝いをしている。

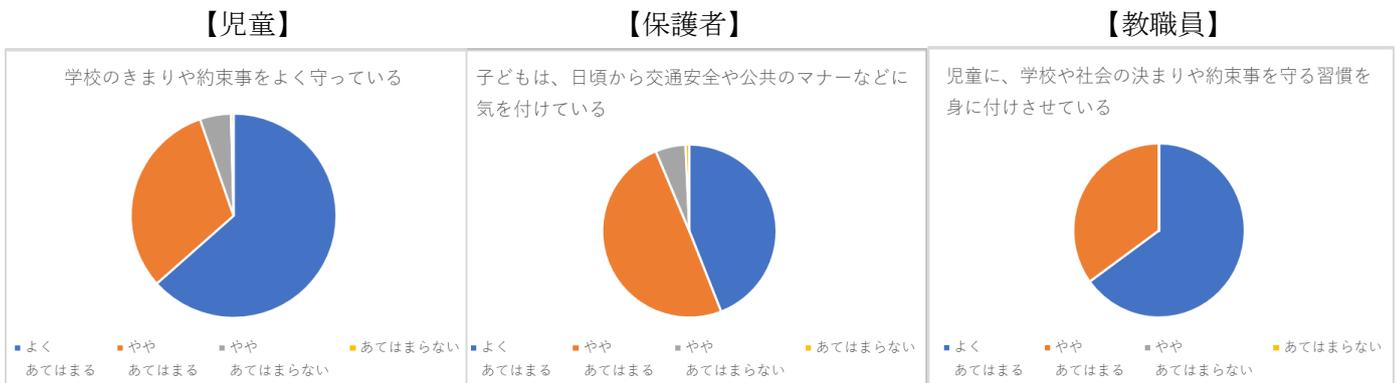
教職員：児童に、自分の役割を果たすことの大切さを伝えている。



⑪児 童：学校のきまりや約束事をよく守っている。

保護者：子どもは、日頃から交通安全や公共のマナーなどに気を付けている。

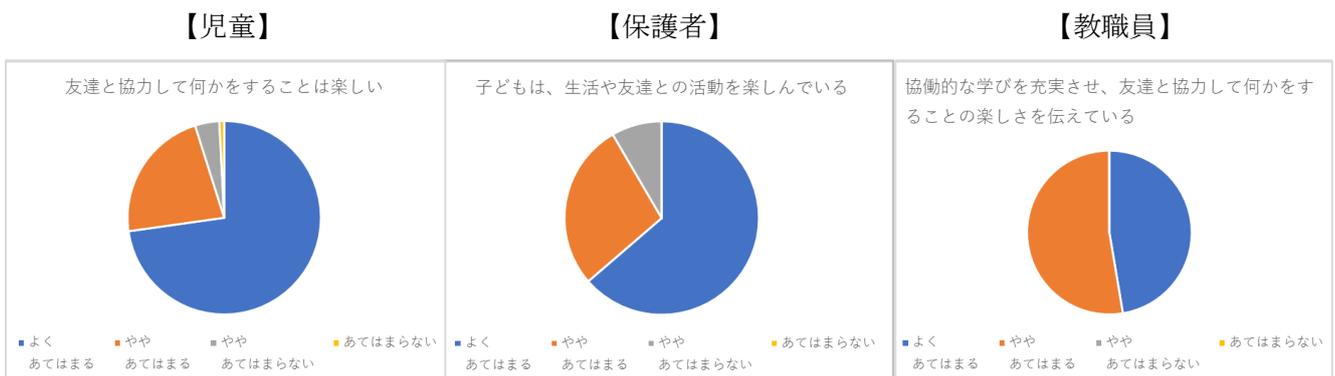
教職員：児童に、学校や社会の決まりや約束事を守る習慣を身に付けさせている。



⑫児 童：友達と協力して何かをすることは楽しい。

保護者：子どもは、生活や友達との活動を楽しんでいる。

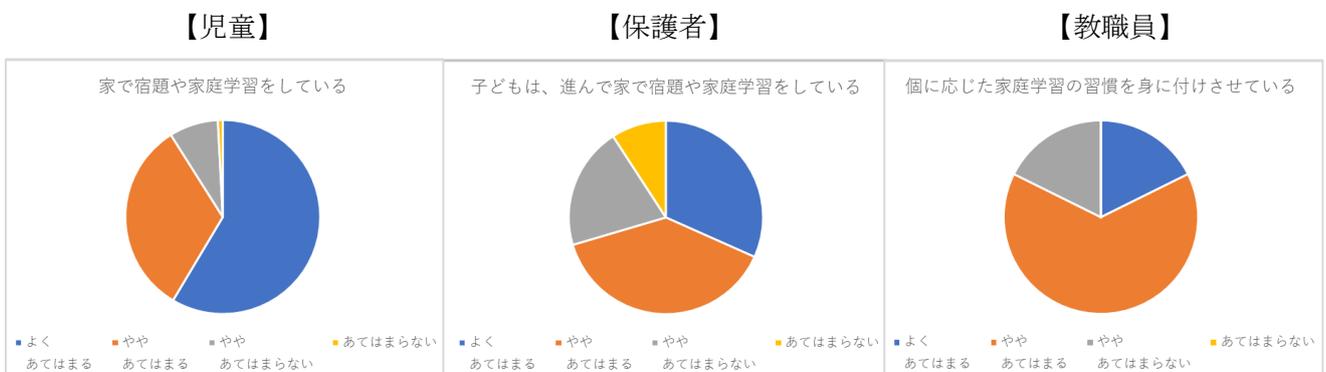
教職員：協働的な学びを充実させ、友達と協力して何かをすることの楽しさを伝えている。



⑬児 童：家で宿題や家庭学習をしている。

保護者：子どもは、進んで家で宿題や家庭学習をしている。

教職員：個に応じた家庭学習の習慣を身に付けさせている。



⑭児 童：校外学習や出前授業で、いろいろな「人 もの こと」に関わることは、よい学びになっている。

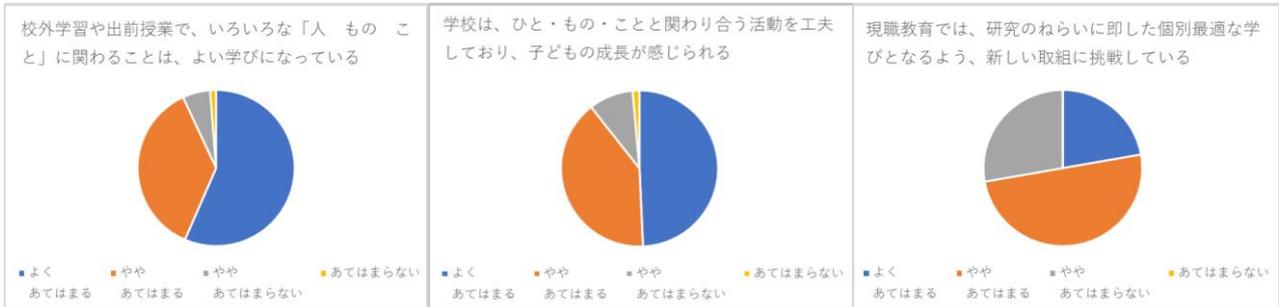
保護者：学校は、ひと・もの・ことと関わり合う活動を工夫しており、子どもの成長が感じられる。

教職員：現職教育では、研究のねらいに即した個別最適な学びとなるよう、新しい取組に挑戦している。

【児童】

【保護者】

【教職員】



⑮児 童：地域の行事などによく参加している。

保護者：子どもは、地域の行事に進んで参加している。

【児童】

【保護者】



⑯保護者：学校からのおたよりやホームページは、分かりやすく読みやすい。

教職員：分かりやすく親しみやすい通信やHPにより、日々の教育活動について家庭に発信することに努めている。

【保護者】

【教職員】



4 考察

(1) はじめに

児童と保護者の回答は、全ての項目で肯定的な評価の割合が否定的な評価よりも高くなっておりよい傾向であった。教職員の回答も同様の結果であった。

特に、「友達と協力して何かをすることは楽しい」「学校のきまりや約束事をよく守っている」の項目について、約 95%の児童が肯定的な評価をしており、友好的人間関係のもと、落ち着いた環境の中で学校生活を送ることができていることが伺えた。

(2) 成果と課題

※数字は「3 集計結果」と対応

①「教室や学校を整頓し、安全できれいにしている」(児童)については、肯定的な評価の割合が児童・保護者・教職員ともに高い評価であった。児童は、自らが生活する空間を居心地のよい場となるよう努め、教職員はその行動を支援していることがわかる。

②「学校へ来るのが楽しい」(児童)については、全ての教職員は心の居場所のある楽しい学校・学級づくりに取り組んでいるものの約 15%の児童、約 10%の保護者が否定的な評価をしている。一日の大半の時間を過ごす学校が、児童にとって楽しい場となるよう、否定的な評価が減少するよう、引き続き安全で安心が学校づくり、学級づくりに努めたい。

③「授業は楽しく、分かりやすい」(児童)については、児童・保護者ともに約 90%が肯定な評価をしている。しかし、教職員アンケートの「子ども一人一人が課題をもち、主体的で対話的に学習することのできる授業のための工夫を行っている」では、児童・保護者の肯定的な評価よりも 5%程度低い。これは、全ての児童に課題をもたせ、主体的で対話的に学習させることについて、困難さを感じている教職員がいる表れであると考えられる。社会の変化に主体的に関わり合い、他者と協働しながら人生を切り拓いていく力を児童に身に付けさせられるよう、学校全体で取り組みたい。

④「朝読書の時間や休み時間に、進んで読書をしている」(児童)については、児童・保護者・教職員ともに肯定的な評価が低い。児童評価が低い原因は、朝読書の時間には読書をしていても、休み時間には屋外運動場で遊んだり、図書室で本を借りたりと別のことをしているためであると考えられる。保護者アンケートでは、肯定的な評価が最も低い項目が読書についてである。家庭では、本を読むこと以外の楽しみや、すべきことがあるためであると考えられる。

知り得たいことがある際、児童は往々にして容易に調べることのできる SNS に頼る傾向にある。しかし、SNS 上の情報は信頼性に欠けるものもあり、情報の正確さを比較したり、吟味したりする必要が求められる。そのため、教師は図書を使用しての調べ学習の必要性を伝えている。読書の習慣づけだけではなく、図書活用の有用性も引き続き指導したい。

⑥「タブレット端末を使って、調べ学習 (web 検索)、まとめ学習 (文書作成)・発表 (プレゼンテーション) などをしている」(児童) では、児童・教職員の肯定的な評価と保護者の評価とに 20%の差が見られた。タブレット端末を学習用具の一つとして、子ども達は必要に応じて使用しているものの、保護者にはその様子が伝わっていないことが要因であると考えられる。低学年児童については、タブレット端末の基本的な操作方法やパスワード管理などを授業で扱っているため、タブレット端末を活用という段階に至っていないと判断されたのではないかと思われる。タブレット端末を使用することが目的となることのないよう、発達段階に応じた指導計画に沿って、タブレット端末を学習ルーツの一つとして今後も有効に活用していきたい。

⑦「何か困ったことや悩みごとがあったときには先生に相談している」(児童)では、保護者・教職員の肯定的な回答と比較すると、約 20～30%の大きな差が見られた。②「学校へ来るのが楽しい」、⑫「授業は楽しく、分かりやすい」の肯定的な評価が高いことから、児童に「教職員に相談するほどの悩みごとがない」「教職員以外に相談相手がいる」「定期的に行っている教育相談で解決できている」などの理由が考えられる。児童が悩みをもったとき、一人で抱え込むことのないよう、教職員が相談できる身近な存在であるよう今後も努めたい。

⑨「友達や先生や地域の人に進んであいさつをしている」(児童)では、児童・教職員ともに肯定的な評価が高い。しかし、地域の方からは、児童のあいさつの仕方について厳しい意見をいただいている。児童の様子を観察すると、あいさつをする児童は、いつも大きな声で元気にあいさつをする。しない児童は、いつもあいさつをしないと二極化している。そのため、地域の方からは厳しい評価をいただいているものと思われる。校内だけではなく、学校外でも積極的にあいさつする児童となるよう、これまで同様、叱ったり、強要したりするのではなく、教職員から「児童よりも先に、大きな声で、笑顔であいさつ」することを心がけたい。

⑬「家で宿題や家庭学習をしている」(児童)では、肯定的な評価が約 90%である。しかし、保護者アンケート「子どもは、進んで家で宿題や家庭学習をしている」では、肯定的な評価が約 70%と低く、児童と保護者の認識が大きく異なることがわかる。

また、教職員アンケート「個に応じた家庭学習の習慣を身に付けさせている」では、否定的な評価が約 20%ある。これは、教職員が「個別最適な学び」の観点から、家庭学習においても、一定の目標を全ての児童が達成することを目指している結果であると考えられる。発達段階に応じて、最適な宿題の在り方を今後も模索したい。

現職教育に係る⑭の児童・保護者については肯定的な評価が高いものの、教職員の評価は約 70%とそれほど高くはない。⑬同様、「個別最適な学び」の観点と「新しい取組」という視点から肯定的な評価が低かったと考えられる。児童一人一人の能力や特性を見極め、よりよい学びの支援ができるよう引き続き心がけたい。

通信や学校ホームページに関する⑯では、保護者の肯定的な評価は約 95%と高いが、教職員は約 70%と低い。保護者の評価が高い要因は、学校ホームページが毎日更新されているかたであると考えられる。一方、教職員の評価が低いのは、通信の発行には関わっているものの、日々の学校ホームページの更新にはほとんど関わっていないためであると思われる。今後は、一部の教職員に業務が集中することのないように、学校ホームページを毎日更新していきたい。

(3) おわりに

全職員一丸となり、教育目標を達成するため、四つの重点努力目標を掲げ、取り組んできた。児童は落ち着いた環境と友好的な人間関係のもと、様々なことに取り組んできた。その取組の中で、一人一人が課題を見つけ、自らの力で解決したり、時には友達と協力し、助け合ったりして解決をはかってきた。このような日常の学びが、児童にとっての「笑顔で楽しく過ごせる学校」だと考える。

豊かな心と高い知性をもち、心身ともに健康でたくましく、力強く未来を切り拓いていく実践力のある児童を育てるため、今後も学校生活全般の児童の様子をつぶさに観察し、互いを尊重し合う温かい雰囲気となるよう支援し、学習や生活の基盤を維持していきたい。